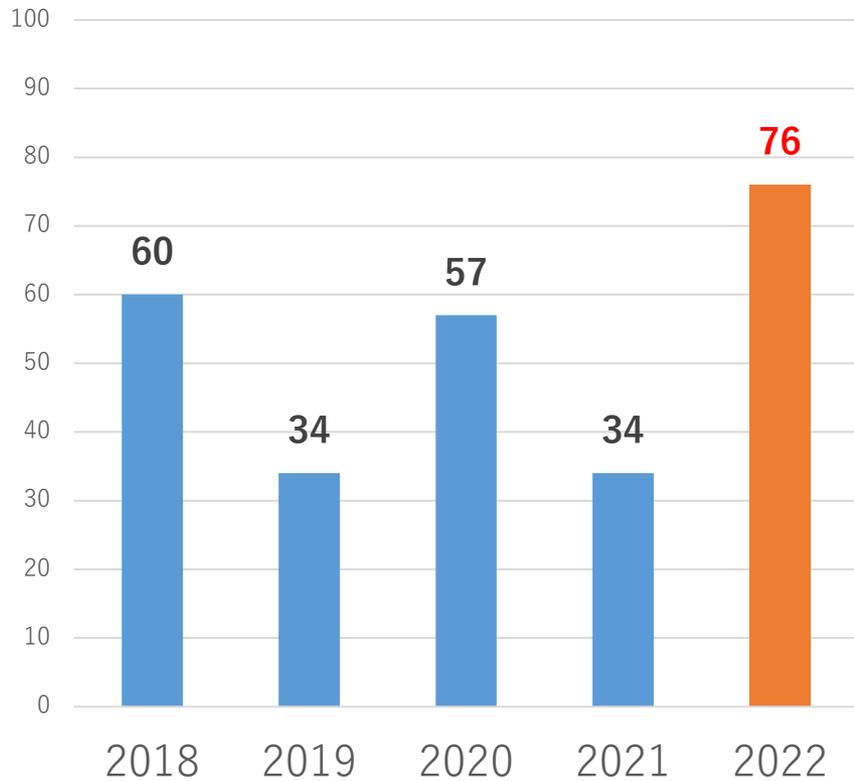


2018-2022年の熱中症死亡数と
2022年の熱中症死亡例の詳細について

大阪府監察医事務所

2018 - 2022年 夏期（5-9月）の総検案数



	5-9月検案数	うち熱中症死亡者数
2018年	1813	60
2019年	1662	34
2020年	2027	57
2021年	2033	34
2022年	2282	76

2022年の夏期検案数は例年に比べ、非常に多く、
死因が熱中症と診断された例も過去最高であった。

2018 - 2022年 月別の熱中症死亡者数

	5月	6月	7月	8月	9月	合計
2018年	0	1	49	10	0	60
2019年	0	0	5	27	2	34
2020年	0	0	3	52	2	57
2021年	1	1	18	12	2	34
2022年	0	4	29	40	3	76

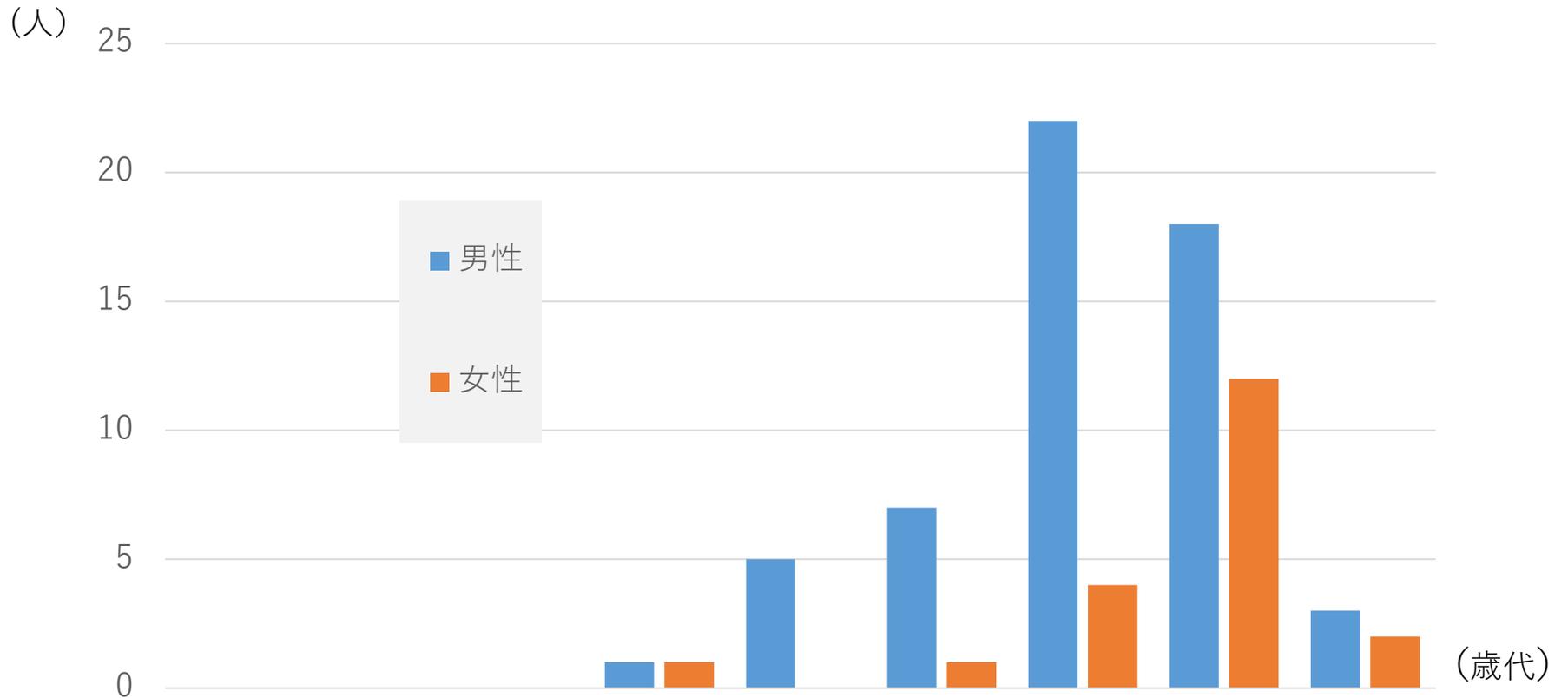
例年、死亡者数のピークは梅雨明け時期に大きく影響を受ける。

特に2022年は、梅雨明け時期が当初発表の6月下旬から7月下旬へ大幅に修正されるなど、やや複雑な気象条件であった。
記録的な暑さに見舞われたことも影響し、監察医事務所で過去最高の熱中症死亡者数を記録した。

以下のデータは2022年の

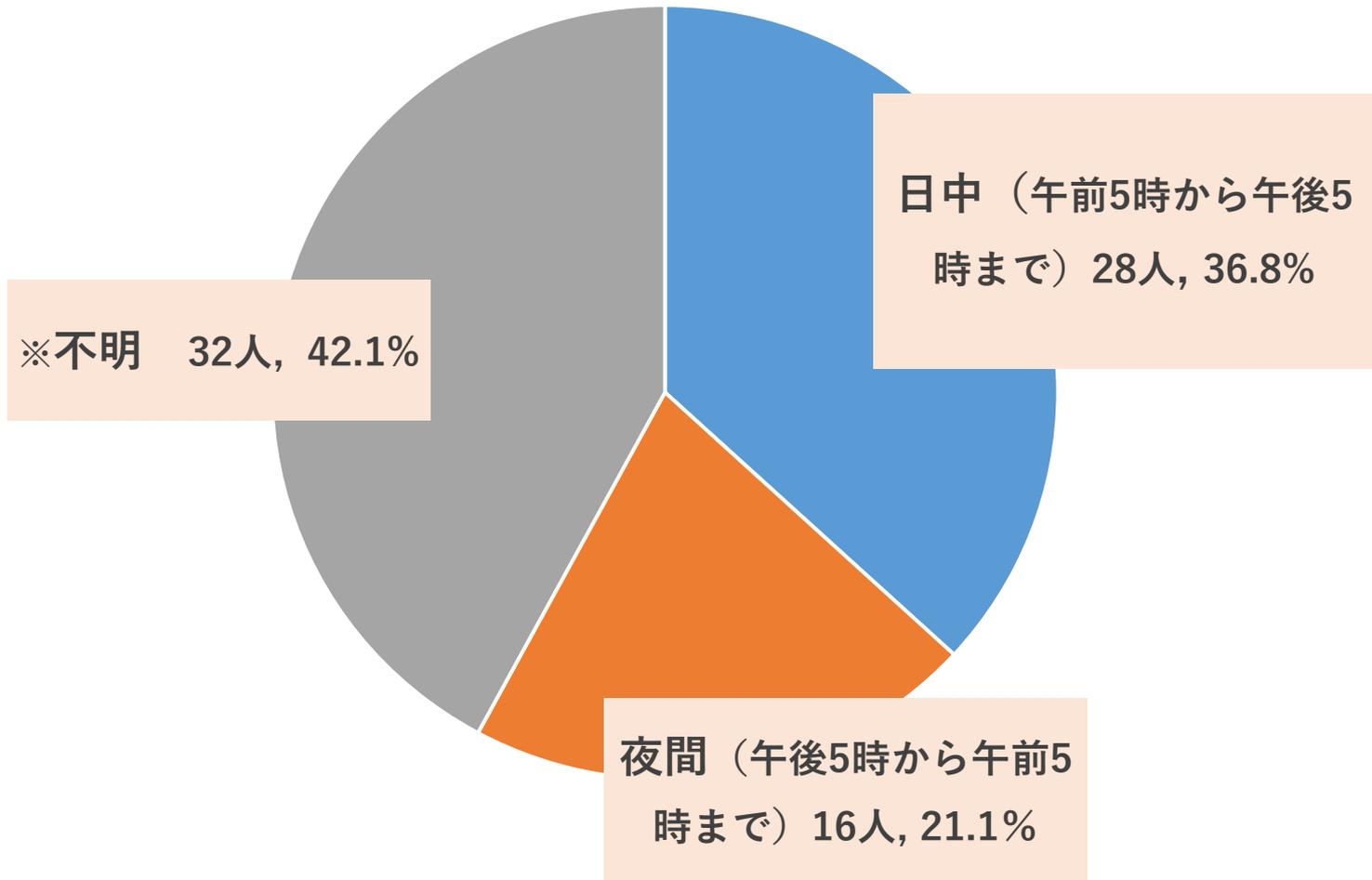
詳細をお示しします

2022年 熱中症死亡者の男女別・年代別内訳



男性では70歳代、女性では80歳代が最も多かった。
高齢者の割合が男女ともに非常に高い。

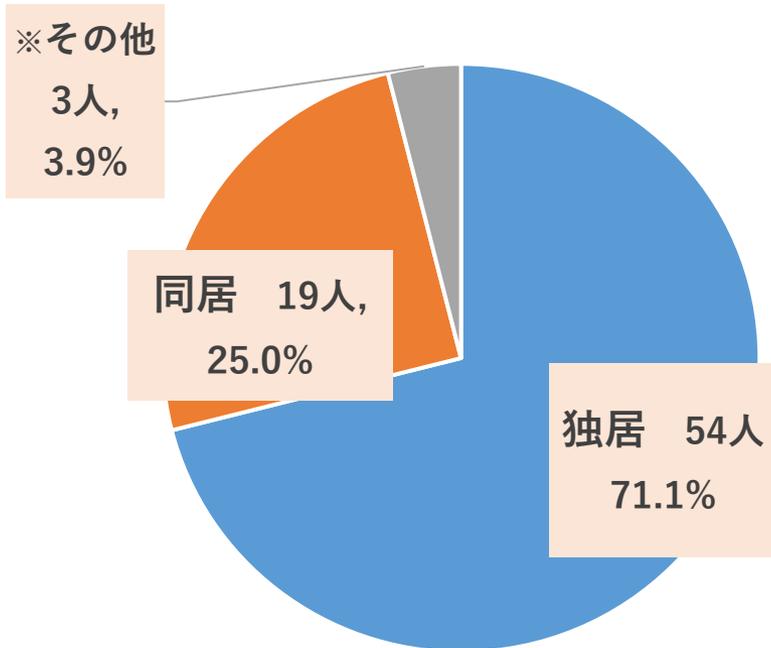
2022年 熱中症死亡者の死亡時間帯内訳



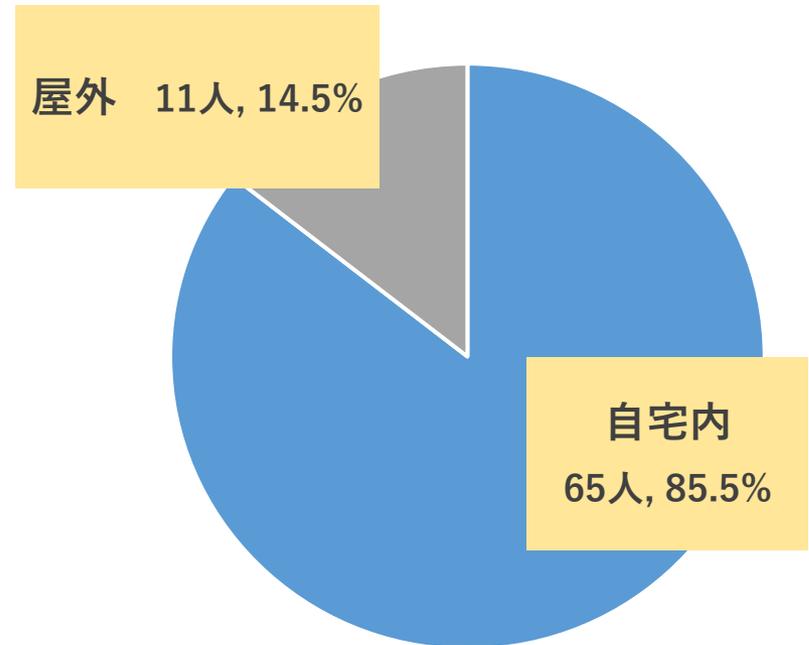
日中の死亡がやや多い結果であったが、夏期は死後変化等により、死亡時間帯の推定が困難な例が多くなる。

2022年 熱中症死亡者の発症場所と居住状況内訳

居住状況



発症場所

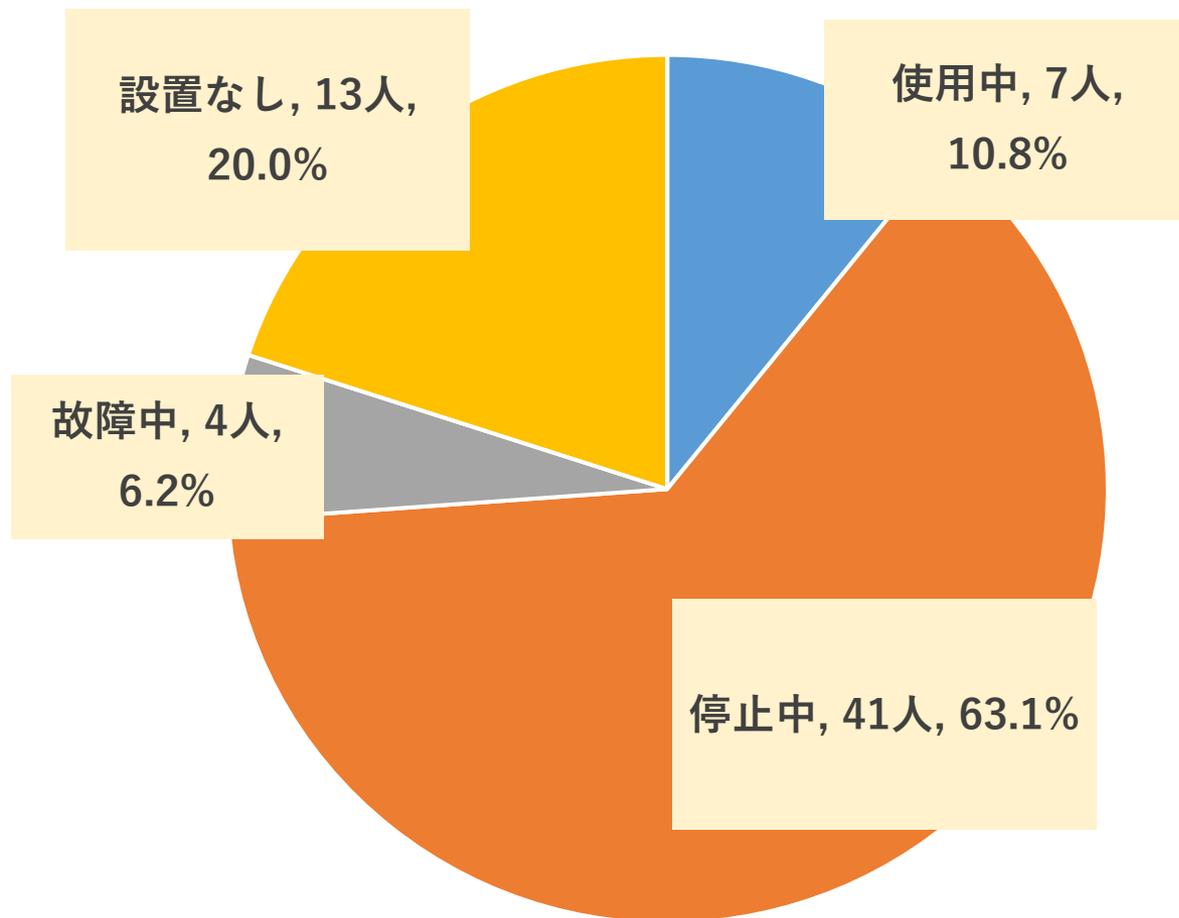


※生活状況不明・路上生活者など

居住状況別では独居が7割を占めるが、同居であっても熱中症を発症し、死に至っている例が多くみられた。

発症場所は自宅内が約9割を占めていた。

2022年 エアコンの使用状況（自宅発症65例のみ）



毎年、熱中症予防を目的として、
エアコン使用に関する注意喚起がされているにもかかわらず、
死亡者のエアコンの使用率は約1割にとどまる。

また、もともとの設置がないケースも多い。